

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子中野桜花保育園
施設所在地	東京都中野区中野2-14-11
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音 「音を聴いて感じて表現してみよう」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

音楽を聴くこと歌うことリズム遊びをすることが好きな子どもたちが多いため、興味関心を伸ばす事ができるよう「音」をテーマとして設定した。
実際に本物の楽器に触れ、自由に音さがしをすることで新しいものに触れながら好きを探究し、その先の表現や奏でることも経験していく。

2. 活動スケジュール

【8月】

8/22に納品された楽器を幼児クラスの室内に楽器コーナーに設定し、子どもたちが自由に触ったり音を出す時間を作る。

【9月】

9/11幼児クラス・・・鈴木楽器所属のスタッフが来園。3、4、5歳児がおとのひろばに参加しリズムを感じる、体を動かす体験をする。子どもたちが楽器遊びに興味関心を強く持つようになり、自分たちから小グループになって、購入した楽器を取りに行き、自由に合奏をする様子が見られるようになる。

・各クラス保育室で探究活動 子どもの興味に合わせて活動を広げる。好きな楽器に毎日触れるようになり10月のわくわくライブに向けて、事前に伺っていた演奏曲にあわせて自由に楽器で鳴らし演奏したり歌ったりして、当日までの時間を楽しみに過ごした。

【10月】

・10/17幼児クラス・・・わくわくライブに参加して初めての体験をする。

・各クラス 音の探究活動 子どもの興味に合わせて保育士が活動を広げる。合奏や歌の楽しさがわかるような活動や好きなもの歌を選択し子どもと楽しんだ。

新しく購入したトーンチャイムで、子どもたちの自由な楽器演奏と同様にスタッフでもトーンチャイムを使った音の遊びなどを行い、遊びの幅を広げる活動をスタッフにも広げていく。

【11月】

・11/5 5歳児クラス…鈴木楽器販売株式会社東京オフィスに訪問。おとのひろばで見たことのない楽器に触れ、刺激を受ける。訪問後に好きな楽器の発表をしあったところ、子どもたちが鍵盤ハーモニカが一番好きという意見が出る。鍵盤ハーモニカは以前から園の備品として置いてあったものの、想定していない楽器だったため、急遽園予算で唄口を購入して子どもたちが自由に鍵盤ハーモニカを演奏できる環境を整えた。

・12月の発表会に向けて、会の中で全クラス歌いたい歌、演奏したい楽器を言い合う時間を作る。自分たちの演奏を誰に聞いてほしいか話し合う時間を作る。

【12月】

・12/5・・・楽器の演奏会をみんなで行う

・12/6・・・発表会で発表しあう

3歳児は自分たちで見つけた虫の鳴き声をテーマにした、

4歳児はジングルベル。ピアノが弾ける子が2名いたので鍵盤ハーモニカで主旋律、それ以外のクラスの子供は打楽器やベルなどを使って演奏する。

・12/26・・・全園児でわくわくライブに参加。プロの演奏家と最高の演奏をしたい、という気持ちになり、みんなで話し合っ、歌の練習をすることに。みんなで奏でること、歌を歌うことを楽しんで、プロの方と一緒に演奏する楽しさを体験した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ 鈴木楽器販売株式会社から楽器を購入⇒楽器スタンド(タンバリン・鈴・ギロ・カスタネット・ミニシンバル・鳥のさえずり・マラカス・小さなグロッケン)・トーンチャイム・ハンドベル・木琴・グロッケン・太鼓セット・ミュージックパット・ボンゴ・ジャンベ
- ・ おとのひろば 交通費、ライブ費用など
- ・ 音さがしの為、楽器を購入し、楽器スタンドを幼児クラスには設置。打楽器のコーナーを作りどのクラスも子どもたちが自由に触れて演奏できるようにした。また、足で踏むと音の出るパットは偶然になる音が気づきになるため日々の保育の中で取り入れていった。
- ・ 楽器の指導はできるだけ最初は自由に表現をするようにしていった。
- ・ 好きな楽器の見つけ方や音色の違いに関しては保育者が、一緒に、何が好きか、どんな音か、音の違いを伝え、どんな演奏でも素敵な音色があることがわかるような関わりや声かけを行っていった。
- ・ 正しい、楽器の使い方を知り、実際の音のキャッチも体験もできるようにプログラム(おとのひろば)を組む。
- ・ 合わせて演奏する事、歌と合わせても楽しいこと、リズムに合わせて体を動かすことを体験できる機会としてわくわくライブを実施する。
- ・ 園に無いより多くの楽器に触れられるよう、楽器屋さんの本社を訪問市演奏する機会を作る。
- ・ クリスマス発表会として自分たちの音を発表する機会を作り、月末のライブで一体となるときれいな音が出ることに気付けるようにしていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 音を知る・音を聴く

2歳児クラス・幼児クラスに楽器のコーナーを作成。

子どもたちが初めて見るような楽器を購入し、興味関心をもった楽器を子どもたちが自由に手に取ることができる環境を整備した。小グループで好きな音・楽器を選び楽器ごとグループを作って自由に演奏した。

2. 楽器の使い方を知る

2歳児クラス・担任の声がけから偶然になった音色やミュージックパットの音色から、音さがし活動を行った。戸外活動でオノマトペの音を探したり、虫の鳴き声など。担任が戸外活動で気づいたことを子どもたちに声掛けをして、自然と子どもたちが音に興味を示すようにして、散歩の楽しみを増やした。2歳児クラスの活動に影響されて、3歳児クラスでも発表会に向けて、自分たちで新しい音をさがしてみようと楽器から虫の音を探して奏でた。

3. 音の探究について子どもたちが自由に演奏することで何を学んでいたか気づきはあったか観察

楽器の演奏や手に取る環境を整備することで、これまで一人で楽器で遊んでいた姿から、演奏が得意な子どもを中心に、楽器の演奏遊びを一緒にやる姿が多く見られるようになった。

幼児クラス・音のひろばで音のキャッチの仕方・奏でることの楽しさを知る活動を行うことで、友達の音を聴き合い音色の気付く事ができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

保育者が楽器が好きで2歳児・幼児クラスの子どもたちに対して、自由に演奏できるように準備をしたいと思っていたが、なかなか実現できず楽器を購入を機にコーナーを作成していった。『音さがし』の声がけを行っていった。初めて見る楽器はなかなか手が出せず緊張する姿も見られる。2歳児は柵にいつでも触れる事ができるようにし、ミュージックパッドも自由に使えるようにしていった。

幼児クラスは楽器のコーナーを広げ自由遊びの際に好きな楽器を手に取り好きな音楽に合わせて演奏していった。

2歳児は山の音楽家を数曲の中から気に入り、歌と一緒に演奏するようになる。同じ音さがしに戸外に出かけオノマトペ探しを行った。『ギロの音が飛行機の音に聞こえる』『鈴の音が電車かな』など探究して行く中でそこからドングリのコロコロする音が1番好き！と言ってマラカスづくりを行った。保育者がこれをどうする？と聞くとママに見せたい！という声上がり、発表会で発表した。その後、わくわくライブに参加し、一緒に楽器を演奏する経験をしていく中で自分たちと一緒に楽しむ経験ができた。

3歳児は虫が好きなどころから虫の音に見ている音はどれだと音さがしが始まり、鈴、タンバリン、ギロ、ミニシンバル、など自分から選んでいた。音の広場で楽器のらし方を知り、リズムに合わせて音を表現している姿も見られた。後半は虫の音の歌に合わせて合奏を楽しみ、擬音語と楽器を合わせる気づきが見られた。自由な表現で発表することがわくわくライブを通して実感し、保育の中で自然と発表会が始まり、実際のクリスマス発表会で演奏した。

4・5歳児クラスはおとのひろばでトーンチャイムで音のキャッチを学び好きな音を好きな人に飛ばすことを楽しんだ。演奏する楽しさは楽器にも広がり、保育者の『今日は音は何する？』と聞くと、自分の好きな楽器で好きなリズムが楽しいと取り組む姿があった。2回のわくわくライブでは、1回目はおとのひろばの音のキャッチを保育者も行い、先生の音は高い、面白いときづき、実際に2回目のおとのひろばでは実際に音を繋げたり好きな音を伝え合うと面白いリズムができると学んでいた。発表会では好きな音から合奏をしたいと子どもたちが率先して演奏し保護者の前でジングルベルを演奏した。その際は保育者みんなが好きな音はどれか、どんな音がきれいかを聞いて考えて気づきになるような声掛けをしていった。友達と合わせることの楽しさを学び2回目のわくわくライブでは園全体で園歌つながりっキップを合唱と合奏で行い、表現する楽しさを体現できていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

①取組前の姿、

2歳児は、音楽は好きだが音に対しては意識がなく、楽器の中で触ったことのあるものはせず。きれいな音かうるさいのかなどは気にしていなかった。幼児クラス、楽器はあったが、触れてみようということもは少なかった。歌や、リズム遊びは好きな様子が見られる。

②取り組みによる変化

2歳児は、玩具棚にある楽器は毎日触れ鏡の前で演奏し、音の違いに気が付くようになった。

高い低いを感じられるようになり耳に楽器を当てて音を聴いたり、音さがしも楽しんでいる。

幼児クラスは、きれいな美しいを楽器に自由に触れることで、音の違い、楽器の音色の違いに触れて毎日小グループで演奏会を開いていた。音のキャッチの仕方がわかると、音を楽しむ姿が変わり意識で聴くことができるようになってきた。

③気づき

2歳児は音が楽しいと、聞いてほしいという気持ちが芽生えごっこ遊びの中に発展していった。保育者も一緒に主体的に奏でたい楽器を持って保育の中で楽しむことで発表会ごっこは展開されていった。幼児クラスは音さがしをじっくり数か月楽器や歌、で行った結果、虫の声、動物の足音などオノマトペを探し自分たちで毎日、演奏する時間が増えていった。その中で聴いてほしい、友達の楽器は自分の音と違う音がする自由に表現すると楽しいとわかり、自然と発表会につながっていった。動画を撮影し、音色を伝えると聞きながら子どもたちが『〇〇ちゃんの演奏がやさしい』や『きれいな音が出ている』なども分かたり実際に演奏を聞かせ合うことで自分が好きな音はこれと伝えられるようになっていった。

④今後の展望

2歳児がオノマトペで遊び音を楽しむ姿が見られた。プロの演奏や楽器などにふれて、演奏の楽しさやハードルが下がり、子どもたちが自由に楽器の演奏や音楽を楽しむ土台ができたことで園全体に「音楽が好き」の一体感がうまれた。トーンチャイムやハンドベルの演奏で更に音のキャッチ、また、音色の探究、実際に音色を和音にしてみたりをやりたいと意欲のある子や、太鼓の振動に気づきじっとくりかえしてたたくこどももいるため、今後もやってみたくなる環境とそこに伴うこどもの興味をキャッチして更なる音の探究を行っていきたい。